

# 日本をキリストへ 協力

「日本をキリストへ」  
伝道団体連絡協議会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1  
TEL 03-3296-1001

## 東京大聖書展 と伝団協

日本聖書協会 総主事 渡部 信



二〇〇〇年十月二十六日  
(木) から十一月八日(水) の  
二週間にわたり、東京有楽町  
「そごう」で東京大聖書展が行  
われることになりました。

西暦二〇〇〇年という節目

に東京近郊のキリスト諸教会、  
キリスト教関連団体が祈りを一つにして準備に着手するこ  
とができましたことは、神さまの導きと言わざるを得ま  
せん。特にそのために組織されました実行委員会には、カ  
トリックの全面的参加とNCC加盟プロテスタント、JEA  
加盟プロテスタントの諸教会の協力関係により、ほぼ全  
キリスト教関連団体の賛同をいただくことができ、七月二  
十二日、東京YMCAの礼拝堂をお借りして、そのための  
発起記念礼拝を行うことができました。

最近にないこのようなエキシユメニカルな動きは、この聖

書展を通して私たちのイエス・キリストの福音を少しでも  
多くの方々にも知っていただきたいという、皆様方、すべ  
てのクリスチャンの願いと祈りの表れだと思えます。日本  
聖書協会では、そのために側面的な応援をすることともに、  
この東京大聖書展のために伝道団体連絡協議会のご協力を  
いただき、ぜひ成功裏へと努力したいと思えます。

また、私の別な思いとして述べさせていたたくならば、  
今回の東京大聖書展を通してそれぞれのキリスト教会が持  
つ、あるいはキリスト教関連団体が持つ性格や特徴がお互  
いに生かされ、主の御用とさせていたたくのと同時に、さ  
らに将来にわたつてのキリスト教ミニストリーのあり方や  
伝団協のあり方を、もう一度再構築していく新しいネット  
ワーク作りのきっかけになっていくことができれば幸いだ  
と思えます。

日本聖書協会の聖書協会世界連盟のマニュアルには「他  
と同じ仕事をするな、他と競合しないで、他と協力し合い  
なさい、その中から自ら専門的で、最も良いものを作り出  
しなさい」と書かれています。これは一般の競争市場経済  
と違い、少ない資材で有効かつ、「キリストのために」とい  
う一つの目的を持った私たち伝団協が持つそれぞれの使命  
に沿うものではないかと思えます。

これから具体的な東京大聖書展に向けた働きが明文化さ  
れてまいりますので、皆様方のご協力とご支援のほどを心  
からお願ひ申し上げます。主の恵みを祈りつつ。

# 伝道団体とコンピュータ・ネットワーク

ハーベスト・タイム理事 能城一郎



「私は、現在、毎月二千通のDMをひとりで十分間で発送し、その通信費は、わずか四十円です。」

これを読んで興味のない方は、すでに沸かない方は、すでにこの記事は読む必要がありません。

今年の六月、インターネットへの加入者が一七〇〇万人に達しました。私の教会員の家族で調査したところ、携帯電話は家族に一〜二台あり、そして、だれかひとり「インターネットしている」という状況でした。二〇〇〇年十二月には、インターネット加入者は、三〜五〇〇万人になると予測されています。

このインターネット、日本では一九九六年から急激な普及が始まりました。パソコンを文書作成の道具だけに使う時代は、すでに終わりを告げました。今は、パソコンとインターネット

をつなげた「ネットワーク時代」に突入しています。

この新しいネットワークを伝道団体は、「広告伝（ホーム・ページ）」「献金回収（電子マネー）」「顧客管理（イントラネット）」「サポート（電子メール）」……等々に活用することができます。この活用により、人件費、広告宣伝費、通信費が下がり、より質の高い伝道サービスを低コストで効率よく行うことができます。

これは、一般企業では当たり前前のリストです。が、いつもキリスト者は、新しい技術に追いつけずに、他団体が始めてその成果を見てから、「じゃあうちもやりましょう」という傾向があるのではないのでしょうか。米国で「TV伝道」が始まった時、多くの牧師が「悪魔の箱でどうして伝道するのか!」と批判したことはあまりにも有名な話です。TV技術と違い、このインターネットという怪物(?)は、その普及率が四年で二十倍という恐ろしい数字です。私たちが待っていれば、「宣教団体は何を考えて

いる。宣教団体にはひと(技術者)がいないのか!」とお叱りを受けること間違いなしです。

この怪物がこの先どうなるのか。だれも予測がつかないのが本当のところでは。しかし、私たちの主はご存知です。この世に存在するすべてのものは、私たちの主が創造され、それら被造物の頭はキリストです。ですから、この怪物も福音を伝える聖なる道具に調教してやれば、福音の楽物(?)になるのです(……と考えるのは私だけでしょうか)

黒船が来航した時、坂本竜馬は「画龍点睛」の発想で、この怪物を動かし支配する技術を学ぶことを第一としました。大胆にも幕府方の勝海舟から、当時の世界最先端の航海術を習得するのです。そして、その知略でとうとう黒船を手に入れてしまうのです。そして「この黒船上の黒船を造り、それを自由に操れる人材を育てれば、「黒船なんぞは、恐くねえ」と亀山社中、あの有名な海援隊を組織します。そして歴史的な大事業、大政奉還のシナリオを書くのです。龍馬、二十八歳から三十三歳の五年間にです。十月の研修会では以上のような視点から講演させていただきます。

(単立・暁キリスト教会牧師)  
(研修会の案内は最終ページにありますので、ご覧ください)

# 第十五回定期総会報告

一九九九年四月十九日(月)午後二時〜四時三十分、お茶の水クリスチャン・センターで第十五回定期総会が開催されました。出席団体二十、委任状十五、参加四十七団体中の三分の一以上の出席を得て、総会が成立しました。

第一部、礼拝において、村上宣道師がマタイ九・三五〜三八より「収穫は多い」と題してメッセージされました。

第二部、総会は議長に岡田哲夫氏、書記に中川信義氏を選出され、点呼の後、議事に入りました。

1 「一九九八年度活動報告」に続き、2 「一九九八年度決算報告」がなされました。予算との差額の大きなものが説明されました。

「収入・会費予算は、四十五万円(年会費一万円四十五団体)であったが、三十六万円にとどまった。未払いの各団体からの速やかな納入を願いたい。支出・機関誌『協力』は、三回発行予定であったが、一回のみの発行であったので機関誌(協力)、事務通信費は、予算の約三分の一であった。研修会が開催されなかったため講師謝礼の費用がなかった。代わりに、情報交換会が増えて、会場費のアップとなった。フェ

スティバルが開催されなかったため、補填費の支出はゼロであった」

続いて、監査報告がなされました。

3 「会長改選」に関して、羽鳥明師より、体調がすぐれないので会長を辞任し、後任に村上宣道師にお願いしたいとの申し出がありました。

この件に関して、残る任期一年を副会長の村上師に「会長代行」をお願いし、来年度の改選時に新たな会長を選出することを了承しました。

4 「一九九九年度活動計画」が承認され、5 「一九九九年度予算案」が説明されました。

昨年度と変化したところは、「収入に関しては、各団体からの会費納入をお願いしたい。支出に関しては、『協力』を三回発行予定して十一万円。役員会費五万円は、二カ月に一回の割り合いで役員会を開いているが、茶菓等の諸費用、各役員の交通費、年一回の会食費を予算化した。広告費十五万円は、クリスチャン新聞に年二回。予備費の四十五万円は、一泊研修会に代わって情報交換会になった場合の会場費に使う」との説明があり、承認されました。

五分間休憩の後、懇談会を行いました。

## 1 「フェスティバルについて」

教会や一般の人に伝道団体連絡協議会がどんな働きをしているか、その存在と活動の意義を知っていただきたくフェスティバルを開催した。東京、岡山、名古屋、神奈川、埼玉で開催された。今回、二〇〇〇年のフェスティバルに際し、伝道協を紹介し、ノンクリスチャンにも興味を持ってもらうパンフレットを作ろうとしている。

## 2 「一泊研修会について」

能城一郎、宮崎光生両師を講師に、コンピュータの使い方、ホームページの作り方などのセミナー予定している。三十名以上の出席を熱望する。

## 3 「大聖書展」について(日本聖書協会から)

二〇〇〇年十月に「有楽町そごう」を会場に一週間のイベントを予定している。聖書歴史の展示などを中心に、コンサート、講演会を考えている。十万人の参加を見込んでいる。伝道協からも加わっていただきたい。(これに対して次のような意見が出された)

\*各団体で新しい事といってもなかなか思いつかない。この世に対して聖書を示していくのは

良い。

\*そこに来られる方に伝団協の働きを紹介することが可能となる。

\*「二〇〇〇年を画期的な証の年にしよう」ということでは、聖書展が最もアピールする。

#### 4 「伝団協」について

教会の働きを伝団協が伝えていく。四十八団体があるが、教会は知らない。まだまだやることは多い。イベントでなくても、伝団協を知っていただく下地作りが必要である。

#### 5 「二〇〇二年ワールドカップ」について

日韓で開催される二〇〇二年のサッカーのワールドカップを伝道のよい機会として用いたい。

午後四時三十分、祈りをもって終了しました。

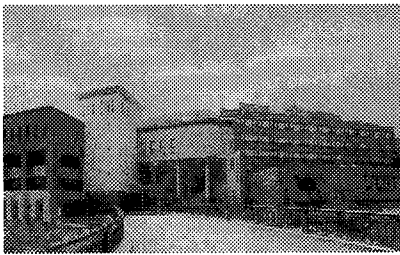
## 一泊研修会のご案内

今年の一泊研修会は、「二十一世紀に向けてコンピュータをいかに活用するか」をテーマに、湯河原厚生年金会館で行われます。講師は能城一郎、宮崎光生先生です。

初心者にも分かるようなクラスも設けています。この機会に、各伝道団体のコンピュータ・ネットワークに目が向けられる良い機会になればと願っています。多くの方の参加を期待しています。

詳しくは、案内書が配布される予定です。それをご覧ください。

期日 九九年十月十八日―十九日  
会場 湯河原厚生年金会館



会場の湯河原厚生年金会館

## 一九九九年度伝道団体 連絡協議会役員

会長 羽鳥明 (太平洋放送協会)  
会長代行 村上宣道 (太平洋放送協会)  
副会長 多胡元喜 (いのちのことば社)、原登 (日本キリスト伝道会)  
役員 浅見鶴藏 (新聖書翻訳出版委員会)、岸田馨 (お茶の水クリスチャン・センター)、鈴木留蔵 (日本キリスト伝道会)、滝元明 (全日本リバイバルミッション)、姫井雅夫 (総動員伝道)  
常任役員 岡田哲夫 (いのちのことば社)、鈴木優子 (日本キリスト伝道会)、竹原淑夫 (ライフミニストリー)、寺田勇 (新生宣教団)、中川信義 (太平洋放送協会)、渡辺佐次郎 (お茶の水クリスチャン・センター)  
(このメンバーにより、隔月ごとに役員会を行っています)

発行日 一九九九年八月三十一日  
発行者 羽鳥明  
編集者 小町誠一